

アジアの友邦と共に !!  
ミャンマー教育推進プロジェクト同志会  
団長 衆議院議員西村眞悟

最新情報 No. 9

平成 21 年 6 月 8 日 発行



正面側屋根とひさしの部分は同志会義捐金でトタン板を購入し補修

平成 21 年 5 月 18 日 撮影



サイクロン通過直後のトンテ小学校

平成 20 年（2008）5 月 16 日 撮影



協力 衆議院議員 西村眞悟 事務所  
日本を考える 25 日会  
日本再生同志の会

昨年（平成20年）5月2日にミャンマー沿岸部に上陸し翌3日にヤンゴンを通り、デルタ地帯に甚大な被害をもたらしたサイクロン「ナルギス」から1年を経過した現在の報告を西村眞悟国会事務所より提供されましたので、ご報告申し上げます。

平成20年7月8日より12日まで、日本ミャンマー友好議員連盟（会長 渡辺秀央参議院議員、議連幹事長 西村眞悟衆議院議員、松下新平参議院議員）公式訪問団がサイクロン被害状況視察した際ミャンマー政府から要望された案件の内、議連として力を入れたい次案件を政府に要請①沈没船引き上げ②全壊した学校の再建計画（特別号P,11に詳細）

### ミャンマーサイクロン「ナルギス」被災地への我が国支援

平成21年5月

外務省国際協力局

国別開発協力第一課

※青文字は国際機関経由（マルチ）

次の2つの※はミャンマー教育推進プロジェクト同志会が附記

※赤文字は日本ミャンマー友好議員連盟要請

※日本円換算は平成20年5月21日為替レート¥103.40を使用

昨年5月に発生したミャンマーにおけるサイクロン「ナルギス」に対し、我が国は緊急かつ人道的な案件であるとの観点より支援を実施しているが、具体的には以下のとおり。

#### 1. 支援意図表明

- (1) 昨年5月25日のプレッジング会合時、宇野外務大臣政務官（当時）より、約1170万ドル（12億978万円）の支援を表明。（1000万ドル（緊急無償）＋約170万ドル（緊急援助物資＋日本NGO連携無償）＝約1170万ドル）
- (2) 昨年7月22日のミャンマー外相会談時、高村大臣（当時）より、約2100万ドル（21億7140万円）の追加支援表明。

#### 2. これまでに行った支援及び今後の支援計画

各スキーム間の援助の連携を図り、可能な限り我が国の顔の見える支援となるよう留意。また、迅速な支援が可能になるようサイクロン前から実施していたプロジェクトについては、サイクロン被害支援の要素も新たに追加。

##### (1) 実施済み（緊急支援の拡大）

(イ) 国際緊急援助隊：医療チーム

(ロ) 緊急無償資金協力（計約1000万ドル＝10億3400万円）

(a) 世界食糧計画（WFP）：米配給プロジェクト（約253万ドル＝2億6160万円）

(b) 国際児童基金（UNICEF）：井戸修復、簡易トイレ、医薬品（約273万ドル＝2億8228万円）

(c) 国際難民高等弁務官事務所（UNHCR）：緊急生活用品、住居建設用資材（竹）（約173万ドル＝1億7888万円）

(d) 国際移住機関（IOM）：トタン板等の住宅建設資材（約300万ドル＝3億1020万円）

(ハ) 緊急援助物資（3回）計1,07億円

(ニ) 日本NGO連携無償（ジャパンプラットフォーム（JPF）経由 計約1,07億円  
：食糧・生活物資配布等、医療支援、漁業復旧、学校修復等

##### (2) 実施中及び実施予定（一部実施済、緊急・人道的支援の側面とともに復旧の側面もあり）

###### (イ) 港湾・内陸水運

ヤンゴン港深浅測量調査（現地調査、解析終了）→ヤンゴン港開発計画調査型技術協力（ヤンゴン港及び内陸水運の復旧に向けたマスタープラン策定、パイロットプロジェクトの実施）実施中。

###### (ロ) 農業

(a) 調査団派遣済み→エーヤワディ・デルタ地域農業基盤整備（被害の大きいデルタ地帯における農業復旧計画策定、パイロットプロジェクト実施）検討中。

(b) 小規模養殖普及技術協力プロジェクト（2008.9～）

(c) 家畜疾病広域技術協力プロジェクト（2008.9～）

(d) エーヤワディ・デルタ住民参加型マングローブ管理技術協力プロジェクト（2007.10～）

(e) 世界食糧機関（FAO）：国際機関経由で食糧増産に資する種子、肥料、耕耘機等の支給（約2億円：貧困農民支援）。

(ハ) 教育

- (a) 草の根・人間の安全保障無償、日本・NGO連携無償  
平成20年度 14件21校(着工済み)計1.2億円
- (b) 防災的機能も考慮した学校建設事業を検討中。
- (c) **日ASEAN統合基金(JAIF)を通じた支援**  
高等学校3校、シェルター1件 約1.5億円

(ニ) 防災分野

- (a) 被災地図作成(実施済)
- (b) 調査団派遣済み→エーヤワディ・デルタ地域被災地防災計画策定(防災計画策定、パイロットプロジェクト実施)検討中。
- (c) 防災分野の専門家派遣検討中。

(ホ) 保険・医療分野(サイクロン被災地の医療向上も考慮)

- (a) 基礎保険サービス人材育成プロジェクト(2008.10～)
- (b) 主要感染症対策プロジェクト(2008.8～)
- (c) **日ASEAN統合基金(JAIF)を通じた支援**  
病院再建3件 約1.5億円

3、第2次補正予算にて1310万ドルを計上、災害復旧支援として水・衛生分野を国際機関を通じて拠出予定。

(了)

次の1、2、は西村眞悟国会事務所より報告

1、現状について

サイクロン被害により、ミャンマー港には一時100隻を超える船が沈んでいたが現在は4～5隻が沈んでいるのみで、航路については完全に回復している状況。

尚、引き上げ作業はミャンマー政府の意向により、ミャンマー国独力(人力中心)にて実施。

2、日本の協力について

ヤンゴン港復旧にあたり我が国が行った主な協力は、精密な深浅調査による沈没船の位置、大きさ、深さなどの特定とその他引き上げに関わる情報提供。

今後は、引き続き沈没船の引き上げに協力していくと共に、①港湾機能の復旧(栈橋の建設)、②防災計画の策定、を積極的に進めていく方針。

**トンテ小学校の復旧状況をお知らせします。**

**取材日：平成21年5月18日**

サイクロン「ナルギス」の被害に対する平成20年9月18日拠出義捐金200万チャット(US\$1,581=¥168,265)の復旧状況が現地より届きました。



←被害前の学校入り口通路  
(道路側から学校を見る)

門から学校入り口までは→  
セメントを買って作り直し  
(学校から道路側を見る)





壊れた窓ガラスの修繕、以前は曇りガラスだったが、今回は素通しガラス



↑ 修繕された入り口扉



↑ サイクロン時の雨で陥没した教室内の床を修復



← 学校裏側

学校正面→



学校正面の屋根に新しいトタン板を買い、まだ使えるトタン板は裏側の屋根に使用、塗装はされてません。



フェンスは予算の関係上壊れたままになっています。



サイクロンの爪痕が残っていますが、こちらも予算の関係で手つかず



テラスの床、コンクリートの表面が流され盛り土がむきだし、ここも修復されてません。



花壇は左半分が壊れ、右半分は壊れてないそうですが、ただ花はすべて流されました。修復が終わったら新しく花を植えたいそうです。



学校と村の会議用に買い求めたプラスチック製の椅子  
学校は村の集会所にもなっているようです。



以上学校関係でした。只今、学校は夏休みなので先生も生徒もいませんでした。  
現地取材スタッフの話：同志会の義捐金が無ければトンテ小学校復旧はもっと遅れていただろう。

ここからは周辺情報です。



← 村長の家（全景）奥にブルーシートが見えます。  
村長は来年の選挙に向けて忙しいそうです。  
右端に積まれている袋は（拡大写真）↓  
村長を代表として村民に配られた援助物資の種子



被災地として有名なボーガレーなどと違い、トンテには外国からの援助団体もあまり入っておらず、援助物資があふれ村人が働く必要がないと言う環境ではなく、ヤンゴンで肉体労働をする村人が増えてるそうです。同志会義捐金による学校修復は農閑期の村人にとって、現金収入になるので大変助かるそうです。

ヤンゴンからフェリーで渡った  
対岸の町ダラにある学校です。  
屋根は現在も飛ばされたままに  
なってます。



今回の現地取材費は 03/05、06/13 の仮払金残 5, 812 を充当させて戴きました。